

2022（令和4）年さけます来遊状況（第4報：11/30現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の年齢別来遊数では、4年魚（2018年級）は前年同期を上回っているが、平年*1は下回り、3年魚（2019年級）は1994（平成6）年以降で最も多い
- 北海道太平洋では、5年魚（2017年級）が1994年以降最も少なく、北海道日本海では、4年魚、3年魚ともに1994年以降最も多い
- 本州太平洋では、3年魚、4年魚ともに1994年以降で最も少なく、本州日本海では、5年魚が1994年以降で最も少ない
- サケの平均重量は北海道で2.83kg、本州で2.74kgとなり、それぞれ1989（平成元）年以降および1994年以降で最も小さい

*1：平年とは、1994（平成6） - 2021（令和3）年の平均値

・サケの年齢組成 （全国）

全国の主要な河川に回帰したサケの年齢組成をもとに、11月30日現在の年齢別来遊数を推定したところ、4年魚（2018年級）が全体の68%を占めて最も多く、次いで3年魚（2019年級）が25%、5年魚（2017年級）が7%となっています。4年魚および3年魚は、前年同期の207%および255%と前年を大きく上回っていますが、5年魚は前年同期の52%と下回っています。平年同期との比較では、4年魚は平年比84%、5年魚は同14%と下回っていますが、3年魚は同266%と1994（平成6）年以降で最も多い状況です（図1）。

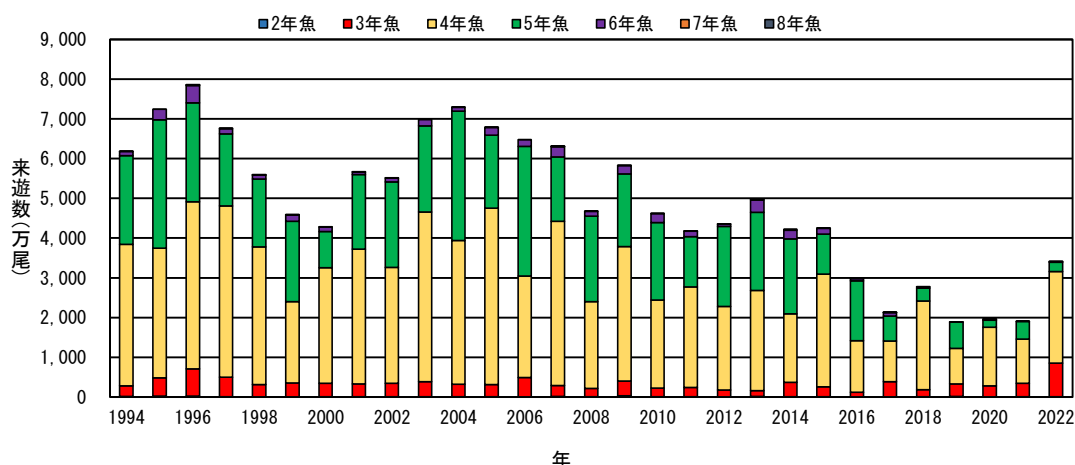


図1. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2018年級）が全体の70%と最も多く、次いで3年魚（2019年級）が23%、5年魚（2017年級）が6%となっています。4年魚の来遊数は前年同期の213%、平年同期の40%、3年魚は前年同期の192%、平年同期の149%、5年魚は前年同期の62%、平年同期の6%となっており、5年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています（図2）。

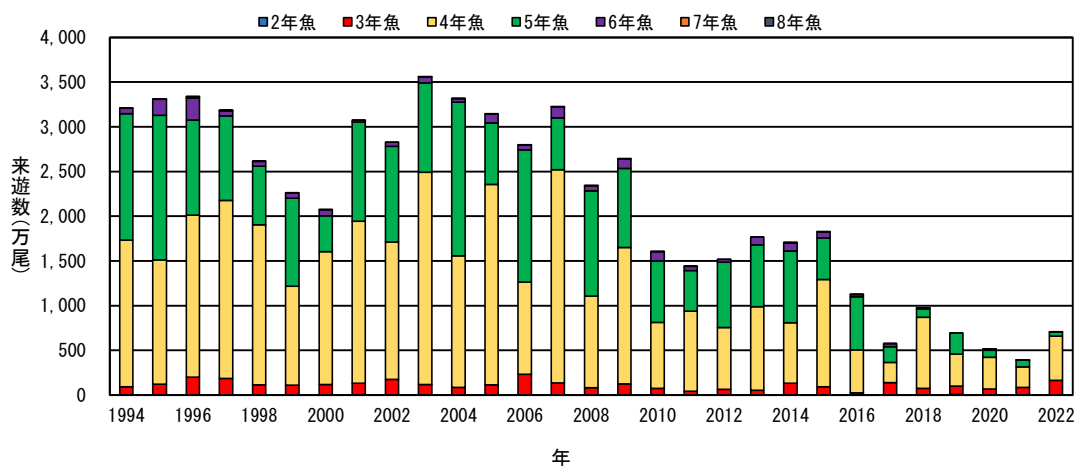


図2. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

北海道太平洋側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2018年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の44%となっています。また、5年魚である2017年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降2番目に少ない値となっています（図3）。

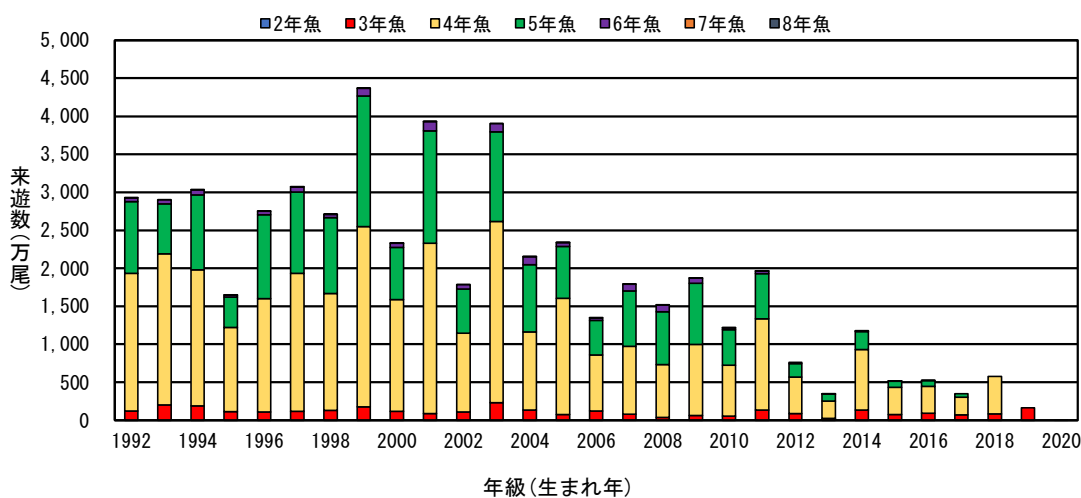


図3. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚（2018年級）が全体の67%と最も多く、次いで3年魚（2019年級）が25%、5年魚（2017年級）が7%となっています。4年魚の来遊数は前年同期の206%、平年同期の170%、3年魚は前年同期288%、平年同期609%となっており、4年魚、3年魚ともに1994（平成6）年以降で最も多い値となっています。5年魚は前年同期の51%、平年同期の27%となっており、1994（平成6）年以降で3番目に少ない値となっています（図4）。

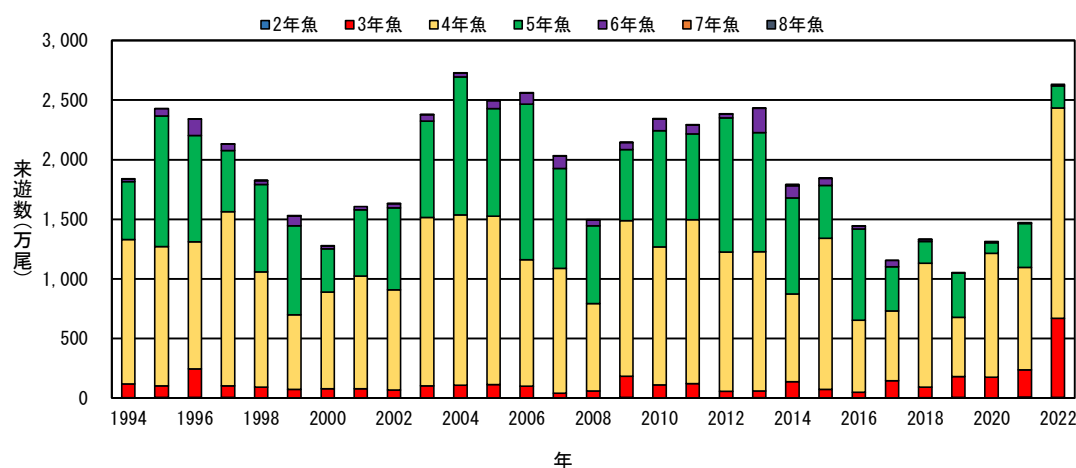


図4. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

北海道日本海側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2018年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降最も多く、平均の177%となっています。また、5年魚である2017年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の67%となっています（図5）。

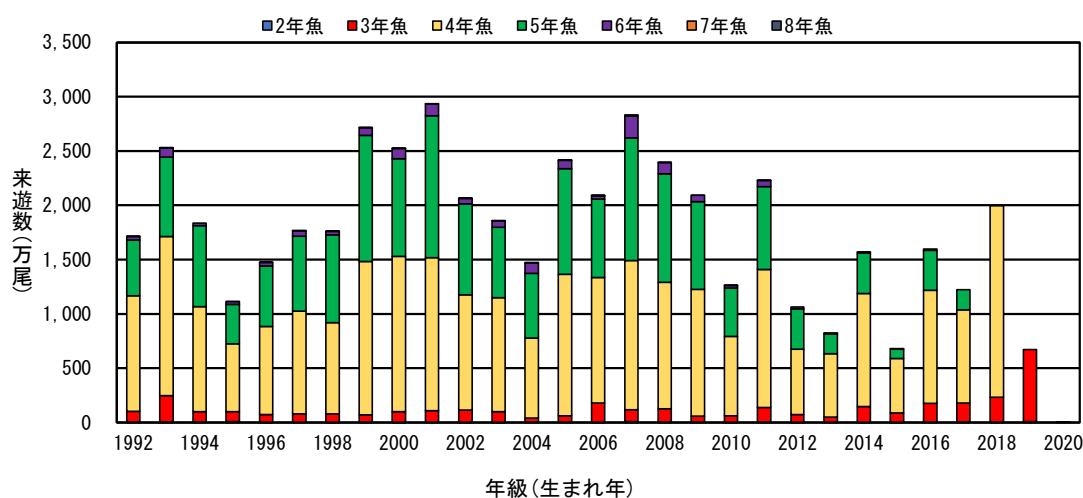


図5. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）.

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚（2018年級）が全体の81%と最も多く、次いで3年魚（2019年級）が12%、5年魚（2017年級）が6%となっています。4年魚は前年同期の187%、平年同期の5%となっており、1994（平成6）以降では2021（令和3）年、2019（令和元）年に次いで、3番目に少なくなっています。3年魚は前年同期の77%、平年同期の4%、5年魚は前年同期の50%、平年同期の1%となっており、ともに1994（平成6）年以降で最も少ない状況です（図6aおよび図6b）。

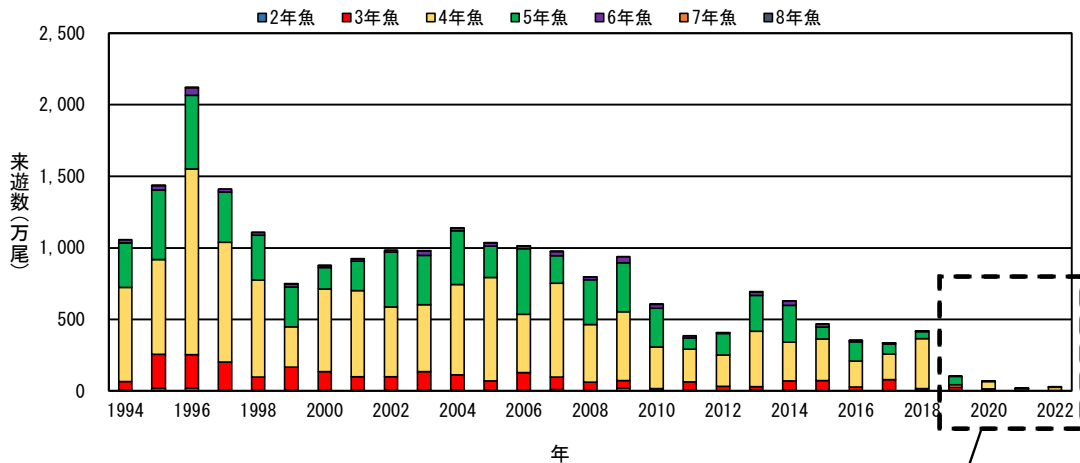


図6a. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）.

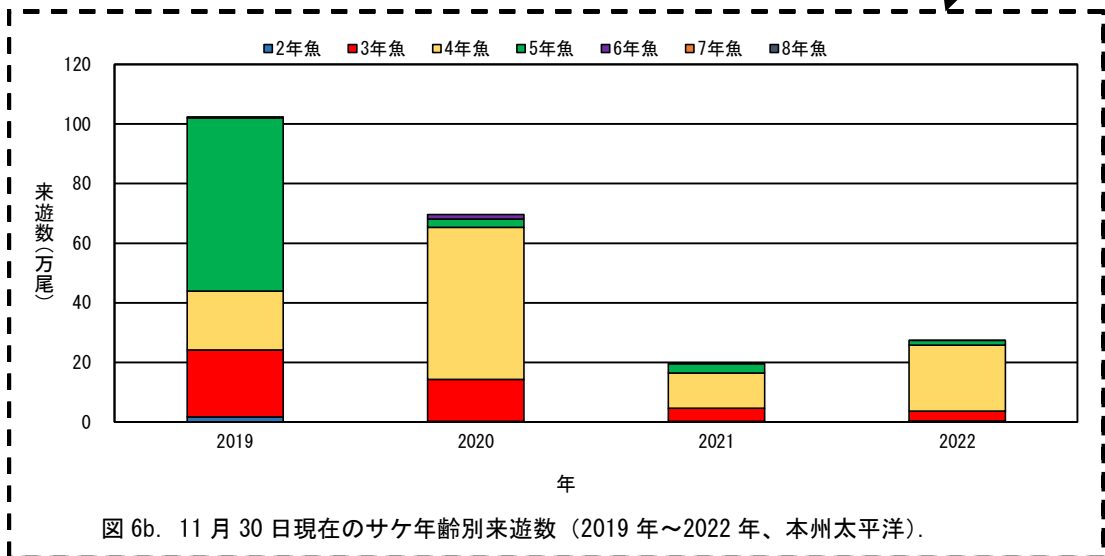


図6b. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（2019年～2022年、本州太平洋）.

本州太平洋側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2018年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の5%となっています。また、5年魚である2017年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の4%となっています（図7aおよび図7b）。

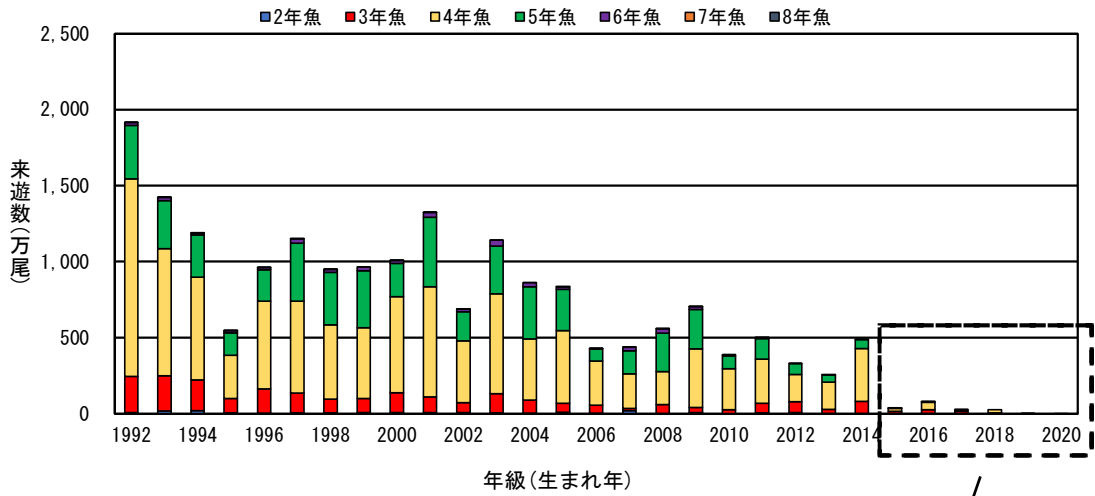


図 7a. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

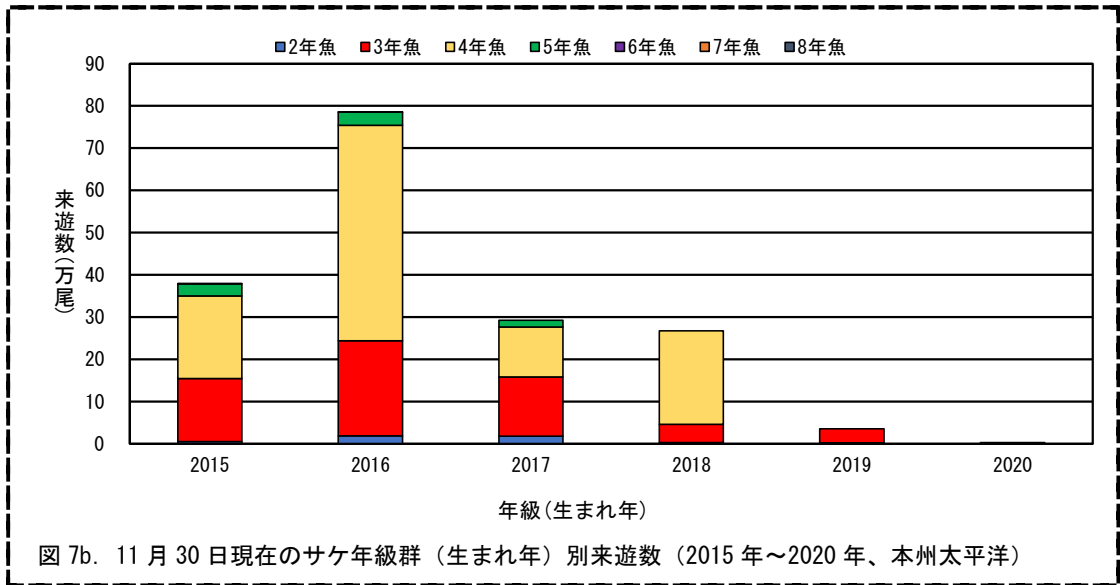


図 7b. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（2015年～2020年、本州太平洋）

(本州日本海)

本州日本海側の年齢別の来遊数は、4年魚（2018年級）が全体の66%と最も多く、次いで3年魚（2019年級）が31%、5年魚（2017年級）が2%と続いています。4年魚は前年同期の257%、平年同期の65%、3年魚は前年同期の107%、平年同期の84%で、ともに平年同期を下回っています。5年魚は前年同期の23%、平年同期の7%と、1994（平成6）年以降で最も少なくなっています（図8）。

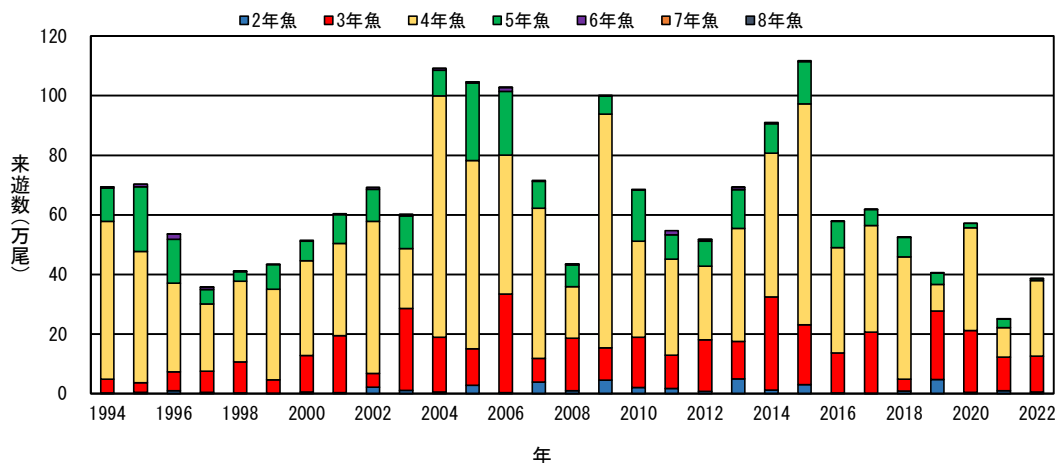


図8. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（本州日本海）。

本州日本海側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2018年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の68%となっています。また、5年魚である2017年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の56%となっています（図9）。

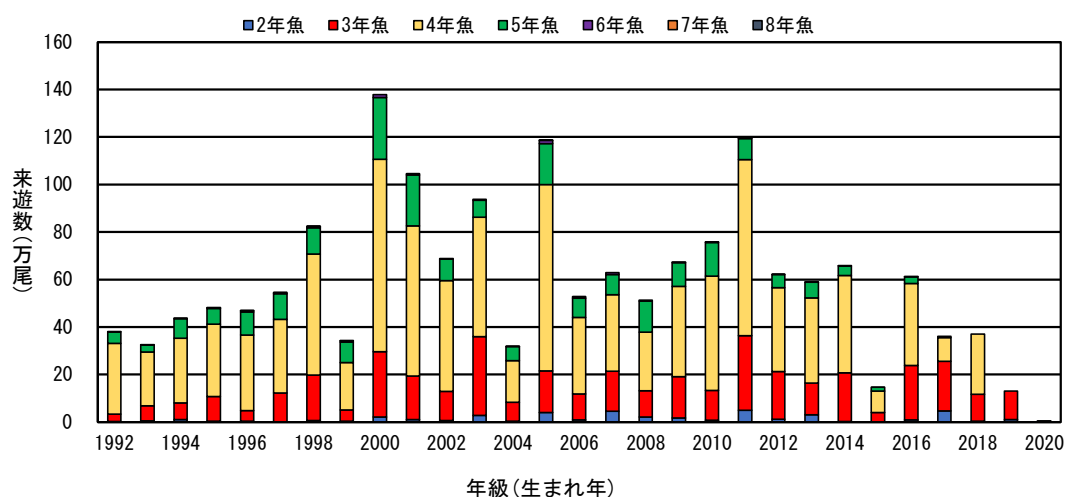


図9. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）。

・サケの体サイズ

(北海道)

北海道における 11 月 30 日現在のサケ 1 尾当たりの平均重量（漁獲数と漁獲重量から算出）は 2.83kg であり、前年同期の平均重量 3.19kg を下回り、1989（平成元）年以降で最も小さくなっています（図 10）。

また、北海道の主要河川に 11 月 30 日現在までに回帰したサケ 4 年魚の平均尾叉長は 64.8cm であり、前年同期の平均尾叉長 66.5cm よりも小さく、1989（平成元）年以降で 7 番目に小さい値となっています（図 11）。

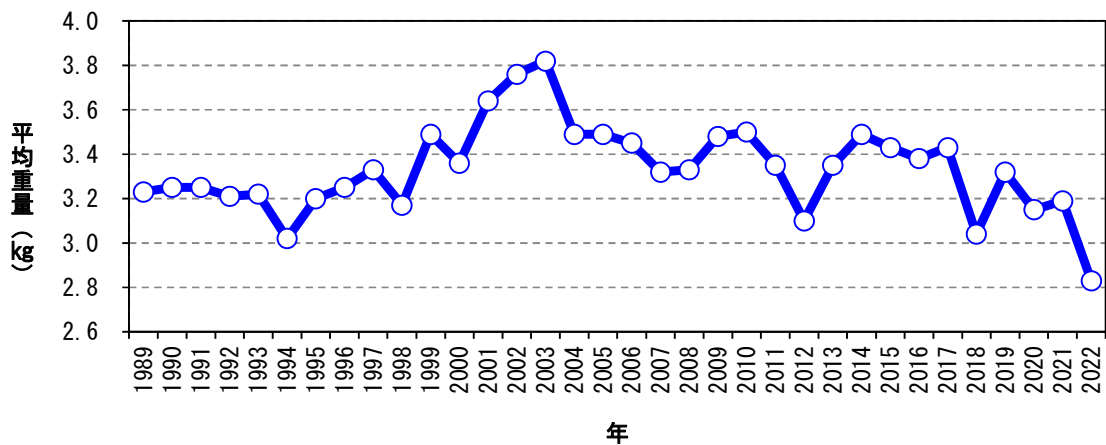


図 10. 11 月 30 日現在のサケ平均重量（北海道）。

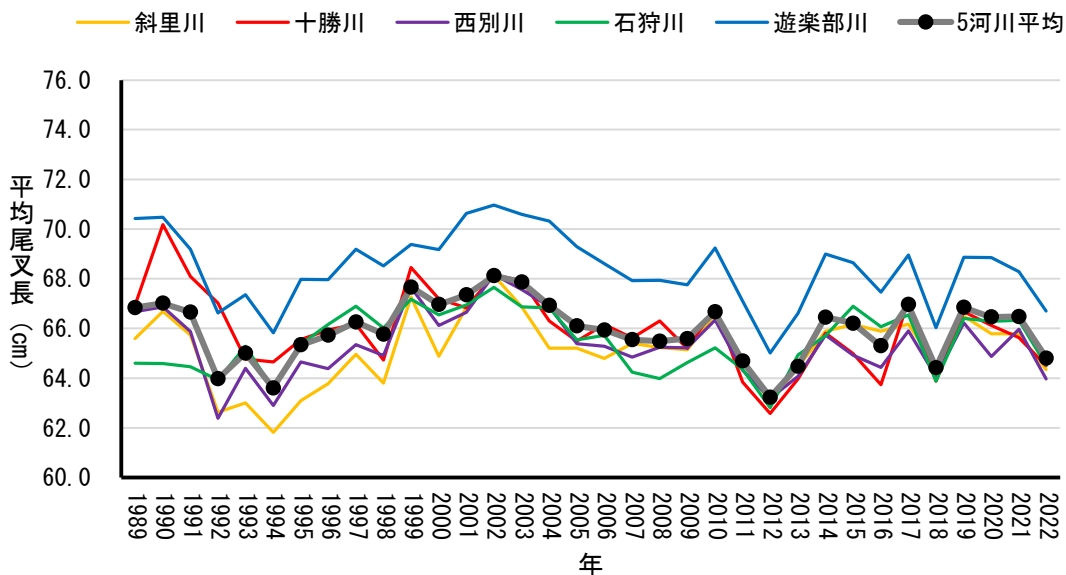


図 11. 11 月 30 日現在の北海道主要河川におけるサケ 4 年魚の平均尾叉長。

(本州)

本州における11月30日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は2.74kgであり、前年同期の平均重量2.90kgを下回り、1994(平成6)年以降最も小さくなっています(図12)。

また、本州太平洋側の津軽石川、本州日本海側の月光川(牛渡川)に11月30日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長はそれぞれ65.8cm、68.1cmであり、前年同期の平均尾叉長のそれぞれ68.8cm、69.6cmから若干小さくなっています(図13)。

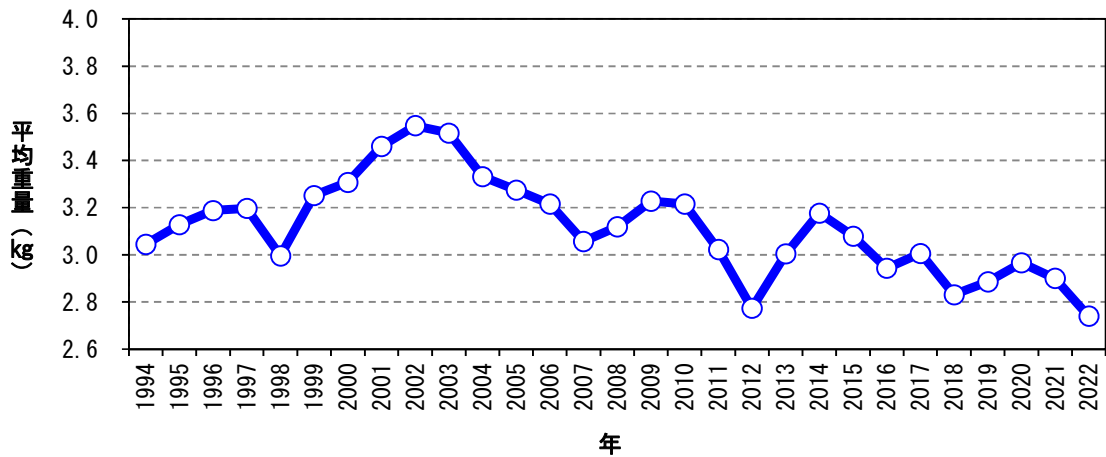


図12. 11月30日現在のサケ平均重量(本州)。

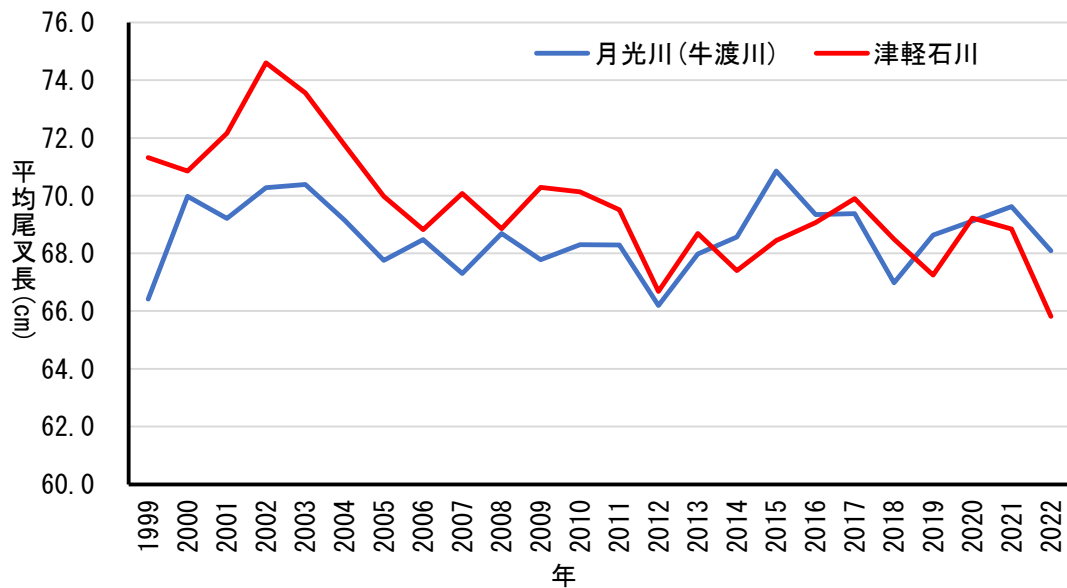


図13. 11月30日現在の本州2河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長。